

紙推進協ニュース

平成30年1月1日 No.92

紙製容器包装リサイクル推進協議会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-21 新虎ノ門実業会館 8階
TEL : 03-3501-6191 ホームページ : <http://www.kami-suisinkyo.org/>
FAX : 03-3501-0203 Eメール : p@kami-suisinkyo.org

年頭のご挨拶

紙製容器包装リサイクル推進協議会
会長 松田 直行



2018年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当推進協議会の活動に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで2月5日に当推進協議会も創設20周年を迎えることとなりました。

当推進協議会最大の懸案事項である容器包装リサイクル制度の見直しについては、平成28年5月開催の環境省と経済産業省による合同会合で、「容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」が了承されました。その後、「プラスチック製容器包装の再商品化入札制度等の見直し」が行われ、昨年9月に開催された産業構造審議会では合同会合以降の動向や「ペットボトルの在り方検討会」の開催状況、中国における廃棄物輸入規制の動きなどが取り上げられました。

中国問題は、紙製容器包装においても、容リルートでは再商品化費用の高騰を、古紙ルートでは相場の暴落や回収の混乱を招きかねず、今後、入札状況等を注視し、当推進協議会としても適切に対応していきたいと考えています。

また、第3次自主行動計画（2016～2020年度）では、自主行動計画2020の初年度（2016年度）の実績を11月27日の理事会の承認を得て、12月の3R推進団体連絡会にて、経団連とともにフォローアップ報告を致しました。

当推進協議会の活動としては、今年も、分別収集の実態把握のための様々な調査等を実施し、紙製容器包装の合理的な再資源化推進のための調査研究を行ってまいります。この他に、「紙製容器包装3R改善事例集」の作成や「エコプロ」への出展も行う予定です。これらの活動と情報発信により、市民や行政との連携の深化と、活動のレベルアップを進めてまいります。また、紙推進協ニュースや会員セミナーなどによる会員への情報提供も随時行う予定です。

末筆ではございますが、今年が会員の皆様にとって幸多い年となります様、こころからお祈り申し上げます。

以上

本推進協ニュースNo. 92は以下の内容を御報告します。

- 1 容り制度見直し関連動向
- 2 平成29年度第2回理事会の報告
- 3 容器包装3R推進のための自主行動計画2020フォローアップ報告
(2016年度実績)
- 4 3R改善事例集第11版の完成
- 5 エコプロ2017への出展

1 容り制度見直し関連動向

1) 中国における廃棄物輸入規制の動き

紙製容器包装関連では、紙製容器包装、あるいは雑がみを含むミックス古紙が輸入規制の対象となります。2016年に、日本国内の製紙メーカーが消費しているミックス古紙は、37.8万トン、日本からの総輸出量は89.0万トン、そのうち中国への輸出の76.7万トンが輸出禁止となった場合、相場も含め大きな影響を受けることが予想されます。

中国の輸入規制については、不透明な点もありますが、大きな影響が懸念されますので、当推進協議会としても、引続き、中国の廃棄物輸入規制の動向を注視してまいります。

2) 第4回ペットボトルリサイクルの在り方検討会(11月21日開催)

指定法人ルートの再商品化業務を効率化するための運用見直しの点検作業が実施され、下記の内容が討議されています。(資料1)

- ① 入札時期の変更(入札時期を今より遅らせて、入札締切から契約・引き取り開始までの期間の短縮を図る)
- ② 3ヶ月ルール改正(有償分のみ分別基準適合物の引き取りから再商品化製品(フレーク等)の在庫を3ヶ月以内に販売しなければならないとするルールの見直し)
- ③ 有償落札分べール代金の支払い方法の変更
- ④ 有償拠出金の支払い時期の変更

紙製容器包装をはじめ、他素材への影響も懸念されます。

3) プラスチック一括回収リサイクル実証事業(経団連容り法に関する懇談会環境省資料)

全国7地域(横浜・川崎・名古屋・富山・大阪・広島・北九州市)で実施(資料2)。

- ① 家庭からの排出される容器包装以外も含めたプラスチックの素材別一括分別回収
- ② 残渣を極力発生させない社会効率的な選別
- ③ 分別水準に応じたりサイクル手法の最適な組み合わせ

などにより、回収可能な資源を全て余すことなくできる限り繰り返し循環利用することを効果的・社会効率的に実現するリサイクルシステムの検証・確立

2 平成29年度 第2回理事会の報告

平成29年度第2回理事会を平成29年11月27日に開催し、1) 算定係数及び単価・容り制度見直し関連動向、2) 新会員のご紹介とご加入のお願い、3) 第3次自主行動計画(2016~2020年度)、初年度(2016年度)フォローアップ報告(案)、原単位の検討及びフローの作成、3R改善事例集第11版(案)、4) 容り制度見直し及び中国廃棄物輸入規制の動き、5) 2020年東京オリンピックに関する動きについて、報告・討議を行い各議案について承認されました。以下にその概要を報告いたします。

議題1 算定係数及び単価・容り制度見直し関連動向

- ・平成30年度の算定係数、再商品化実施委託単価及び平成29年度拠出委託単価を報告しました。単価算出においては、中国の廃棄物輸入規制の影響が大きいことを説明しました。
- ・産構審における容り制度見直し及び中国における廃棄物輸入規制の動きに関する討議、委員会活動、3R推進団体連絡会の活動、中国における廃棄物輸入規制の動き、そして2020年東京オリンピック/パラリンピックに向けての動きの概要を報告しました。

<質問>

- ・中国の影響で逆有償が50%とあるがその根拠は何でしょうか。

<回答>

- ・容リルートでは、名古屋市、相模原市、旭川市の3市からの合計回収量が全回収量の約50%となります。中国の影響を受けても、その3市程度ぐらいは有償で推移することを期待したく、逆有償は、残りの50%程度と想定されています。

議題2 新会員のご紹介とご加入のお願い(第1号議案)

- ・現在、新たな会員募集活動を行っておりますが、困難な状況であります。引き続き、新規会員加入への御協力をお願いしました。
- ・第1号議案に特段質疑なく、承認されました。

議題3 第3次自主行動計画(2016~2020年度)(第2号議案)

1) 2016年度のリデュース実績は11.5%と、前年の12.2%より0.7ポイント減少しました。

- ・売上高原単位でリデュースを計算しますと、2016年度は18.0%の削減であり、前年比0.3ポイント減少したことを報告しました。

2) 原単位の検討及びフローの作成

- ・紙製容器包装の原単位の検討として、2011年度に実施した「紙製容器包装の軽量化実態調査」のアンケートの準備を進めていること、平成28年度版マテリアルフローを作成したことを報告しました。

3) 紙製容器包装の回収率調査結果

- ・2016年度の紙製容器包装の回収率は、25.1%となり、前年度比0.1ポイント増加となりました。回収率の算出においては、行政回収の「雑誌・雑がみ」と「雑がみ」の係数変更の経緯及び算出結果を報告しました。

4) 3R改善事例集第11版(案)

- ・今年度の3R改善事例集第11版の内容及び発行予定を報告しました。本年度は、森林認証の事例が多く報告されました。
- ・第2号議案について特段質疑なく、フォローアップ報告及び3R改善事例集第11版として承認されました。

議題4 容リ制度見直し及び中国廃棄物輸入規制の動き

1) 第4回ペットボトルリサイクルの在り方検討会

- ・11月21日に開催された検討会の報告を前掲のとおり行いました。

2) 中国廃棄物輸入規制関連の動き

- ・中国廃棄物輸入規制関連の現状及び今後の展開予想について説明しました。

<質問1>

- ・中国の輸入が止まった場合、これまで日本から輸出していた約77万トン日本国内で消費できるのでしょうか。

<回答>

- ・中国に輸出されている古紙は品質もばらつくことから、全量を国内で処理するのは、難しいと予想しています。

<質問2>

- ・中国の輸入が止まった場合、次の手を各省庁と考える必要はないでしょうか。

<回答>

- ・経済産業省素材産業課等に相談したりしていますが、中国への輸出品は品質が低く、日本の製紙メーカーではその品質のままでは使えないことが考えられます。もっと品質を上げることが求められます。中国の輸入が再開できるような検討も必要と、思っています。

議題5 2020年東京オリンピックに関する動き

- ・2020年オリンピックでの古紙分別排出による紙リサイクルモデル事業の実施について、検討内容の説明をしました。

3 容器包装3R推進のための自主行動計画2020フォローアップ報告（2016年度

実績)

- ・事業者として取り組む第3次自主行動計画（自主行動計画2020）の初年度となる2016年度の成果発表を、12月11日に経団連会館において、報道関係者に向け、発表を行いました。報道43社（51名）の参加がありました。
- ・自主行動計画2020のリデュース目標を基準年度（2004年度）比12%から14%に変更し、2016年度のリデュース実績は11.5%と、前年度12.2%より0.7ポイント減少したことを報告しました。
- ・回収率の目標28%に対し、2016年の回収率は25.1%と、前年度25.0%より0.1ポイント向上したと報告しました。
- ・紙製容器包装に関わる成果発表の内容は、添付したフォローアップ報告（2016年度実績）を参照したいと思います（資料3）。

4 3R改善事例集第11版の完成

- ・総務委員会の活動として、会員の皆様の紙製容器包装の3R事例をご提供いただき、3R改善事例集を平成19年度より毎年発行しております。
- ・平成29年度は、新しい3R改善事例の他、平成28年度の3R改善事例、食品ロス削減につながる紙製容器包装事例を掲載、容器包装3Rのための第3次自主行動計画（初年度）のフォローアップ報告もまとめ、第11版を作成しました。
- ・皆様の次の3R活動のヒントに利用していただくとともに、事業者の3Rの取り組み等の説明に本冊子をご利用いただけることを希望いたしております。
- ・内容についてのご意見、ご感想を是非事務局までお寄せください。次回の編集に向けて参考とさせていただきます。また、今回の制作にご協力いただいた方々、に改めて感謝申し上げます。第11版は、会員の皆様に発送いたしました。追加をご希望の会員様は事務局までご連絡ください。

5 エコプロ2017への出展

- ・当推進協議会は連続13回目の出展となり、(公益財団法人)日本容器包装リサイクル協会の小間にガラスびん、PETボトル、プラスチック容器包装と協同で展示しました。
- ・今年度 全体の入場者数は、前年度より減少し、16.0万人（前年16.7万人）が来場しました。
- ・今回のテーマは、紙製容器包装のリサイクルルート、リサイクル手法をわかりやすく説明するパネル及び再商品化製品として板紙・紙箱及びRPF等を展示いたしました。
- ・また本展示会にて、3R改善事例集第11版と当推進協議会のパンフレット「紙製容器包装のリサイクルについて」を配布しました。また、3R推進団体連絡会の活動として、8素材の各展示と3R推進団体連絡会との関係を知らしめるために企画実行した3Rクイズラリーにも当推進協議会は参画しました。
- ・2015年に開始された地球温暖化防止に関する国民運動「COOL CHOICE」に3R推進団体連絡会として賛同し、ロゴマークの展示を行いました。当推進協議会は、3R改善事例集第11版に「COOL CHOICE」のロゴマークを付けるとともに、本文内にも「COOL CHOICE」のポスター及び推進要請文を掲載、地球温暖化対策のための国民運動に協力しております。

《別添資料》

資料1 第4回ペットボトルリサイクルの在り方検討会

資料2 経団連 容器包装リサイクル法に関する懇談会

「容器包装を中心としたリサイクルに関する取組について」環境省資料

資料3 フォローアップ報告（2016年実績）より抜粋

